

Three-Year Follow-Up Study of Physical Activity, Physical Function, and Health-Related Quality of Life After Total Hip Arthroplasty

松永, 由理子

<https://doi.org/10.15017/4060019>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (看護学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : © 2019 Elsevier Inc. All rights reserved.

氏名	松永 由理子					
論文名	Three-Year Follow-Up Study of Physical Activity, Physical Function, and Health-Related Quality of Life After Total Hip Arthroplasty (人工股関節全置換術患者の身体活動量, 主観的な身体機能, 健康関連 QOL の 3 年間の追跡研究)					
論文調査委員	主査	九州大学	教授	諸隈	誠一	
	副査	九州大学	教授	橋口	暢子	
	副査	九州大学	教授	樗木	晶子	

論文審査の結果の要旨

人工股関節全置換術（以下、THA）後の身体活動量の長期的な変化については明らかになっていない。本研究の目的は、THA 患者の術前、術後での加速度計で測定された歩数と活動強度、主観的な身体機能および健康関連 QOL の変化を明らかにすることである。

本研究対象者は 153 名（平均年齢 61.4 歳、女性 86.3%）で、THA 前から術後 5 年までの期間に加速度計による身体活動量測定、Oxford Hip Score (OHS) と Short Form 8 (SF-8) を用いて調査した。身体活動量は一日の平均歩数と一週間あたり中高強度の活動 (MVPA) 時間を評価した。術後 3 年までの参加率は 69.9%、術後 5 年での参加率は 35.5% と術後 5 年での脱落率が高かったため、今回の研究では術前から術後 3 年までの報告となった。

本研究の結果、5 つのすべての指標が術後 1 年で増加したが、MVPA と OHS のみが術後 3 年まで有意に増加した。術後の身体活動量改善の予測因子として、歩数は年齢が若いことのみであったが、MVPA は年齢が若いこと、OHS スコアおよび SF-8 精神的健康感が高いことであった。

以上より、THA 後の身体活動量の研究は、術後 1 年までの評価がほとんどであるが、中長期的な観察が必要であることが示唆された。

予備調査では、主査・副査から種々の質問を行い、概ね的確な回答が得られた。以上のことから、調査委員の合議の結果、本論文は博士（看護学）の学位に値するものと認める。